

陸前高田・高田小

「心の支援」継続が鍵

5日、陸前高田市中心部にある高田小を訪ねた。眼下に広がる市街地は依然として更地のままだが、学校に震災の傷痕は見当たらない。体育館からは「子犬のマーチ」の軽やかな演奏が聞こえてきた。演奏していたのは2年生。8日の入学式に向けて鍵盤ハーモニカの練習中だ。「学校はとっても楽しいです」「国語算数だってばっちり」。新入生向けのメッセージの練習も元気を響かせた。

にぎやか

午前10時15分。子どもたちが勢い良く校庭に飛び出してきた。同校が「青空タイム」と呼ぶ休み時間。「サッカーしようぜ」とボールを手にした男の子が声を張り上げ、女の子がさっそうと一輪車にまたがる。真新しい鉄棒で逆上がりをする子も。静かだった校庭がたちまちにぎやかになった。

被災地を歩く

東日本大震災 本紙記者ルポⅢ

震災直後に入学した3年生に学校生活について聞いた。「学校が始まるのを楽しみにしていた。だって友達に会えるから」と鈴木琉菜さん、金野愛生さんが声をそろえる。全児童の4割が今も仮設住宅で暮らす1割が学区外から通う。学校は散り散りになった友達が集まり、思いっきり体を動かせる貴重な遊び場でもある。

津波で浸水した校舎1階は床の張り替えが終わり、2階へと続く階段には運動会や遠足、学習発表会といった学校行事の写真が壁一面に並ぶ。思いつくに進まない街の復興とは対照的に、同校はすっかり日常を取り戻したように見える。

息の長い

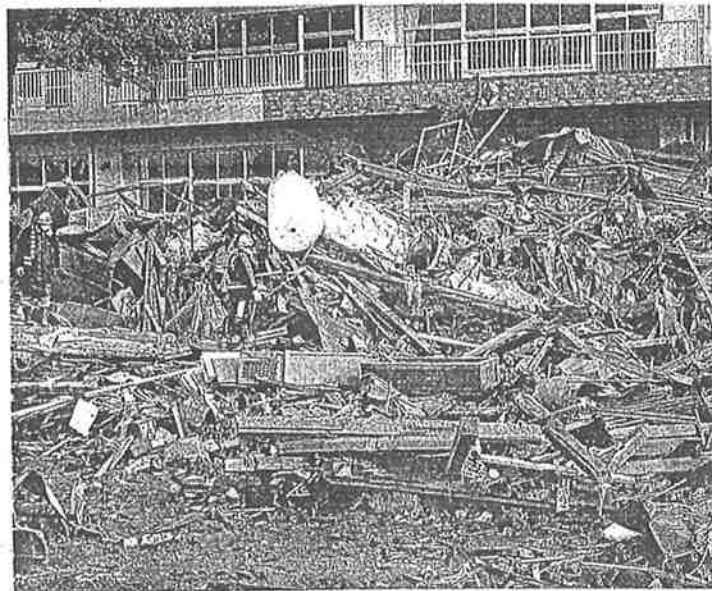
「心のサポート」にも継続して取り組む。県教委が震災後に始めた教員加配は本年度は6人、定期的なカウンセリングも行う。それでも急に

やる気を失ったり、乱暴な言動をする子がいるという。学が進むとは限らない。

家庭環境も重要だ。安定した住まいや仕事が見つからない

いなど、大人が抱える不安やストレスは子どもにも影響を与え、陸前高田の未来を担う子どもたちのためにも被災者の生活再建を急ぐとともに、地域や社会の息の長いサポートが必要だと感じた。

(東京文芸・宮川哲)



がれきに覆われた高田小。消防団員が行方不明者を捜索していた＝2011年3月13日



下校時間を迎えた高田小。がれきが撤去された学校に子どもたちの元気な声が響いた＝2011年6月23日

陸前高田市の小中学校の現状。震災前に18校あった小中学校は統合が進み、4月から12校になった。3日現在の児童生徒数は計1492人で、市外への転校などにより震災前より約400人減った。高田小は市内で最も多い285人が通う。学校の施設は復旧が進むが、遊び場の確保や震災で傷ついた児童生徒の「心のケア」などが課題になっている。